

特殊健康診断

概要

特殊健康診断の受診者数は、2020年度までは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行による特殊健康診断実施時期の延期の影響もあり、前年同期間に比べ、KKCの特殊健康診断受診者数は減少していました。2021年度は受診者数が増加しており、これは前述の受診時期を移行されていた方の受診によるものと推察します。

1.特殊健康診断の所見率

①じん肺健康診断

■前年に比べ受診者数は増加していますが、1/1以上の有所見率は0.23%であり、各管理区分に大きな変化を認めません。厚生労働省の有所見者率(令和3年度)は0.3%です。

対象物質	受診者数	管理区分(小陰影区分)											
		0/-	0/0	0/1	1/0	1/1	1/2	2/1	2/2	2/3	3/2	3/3	3/+
じん肺	7,851	0	7,819	13	1	9	3	3	3	0	0	0	0
	比率	0.00%	99.59%	0.17%	0.01%	0.11%	0.04%	0.04%	0.04%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

②有機溶剤健康診断

■各管理区分の内訳は、B1が著しく減少し、Aが増加する結果となりました。2020年7月から施行された有機溶剤中毒予防規則の改正により、健診項目の変更によるものと推察します。

対象物質	受診者数	管理区分						
		A	B1	B2	C	R	T	T0
有機溶剤	44,639	34,412	652	0	0	20	8,228	1,327
	比率	77.09%	1.46%	0.00%	0.00%	0.04%	18.43%	2.97%

③鉛健康診断

■業務上有所見とされる各管理区分の内訳は、過去と比較して大きな変化は認めません。

対象物質	受診者数	管理区分						
		A	B1	B2	C	R	T	T0
鉛	2,523	1,950	0	0	0	1	523	49
	比率	77.29%	0.00%	0.00%	0.00%	0.04%	20.73%	1.94%

④特定化学物質等健康診断

■前年に比べ受診者数が増加しているのは、2021年4月から施行された特定化学物質障害予防規則の改正による「溶接ヒューム」などの追加によるものと推察します。各管理区分の内訳に大きな変化は認めません。

対象物質	※延べ受診者数	管理区分						
		A	B1	B2	C	R	T	T0
特定化学物質	67,974	52,234	2,007	1	0	31	12,347	1,354
	比率	76.84%	2.95%	0.00%	0.00%	0.05%	18.16%	1.99%

※個人で複数の化学物質対象がある為、延べ受診者数で表記しています。

特殊健康診断

⑤石綿健康診断

■各管理区分の内訳は、Aが減少し、Tが増加する結果となりました。前年はAが増加し、Tが減少しており、今後の推移を見る必要があります。

対象物質	受診者数	管理区分					
		A	B1	B2	C	R	T
石綿	4,006	2,397	0	2	0	0	1,507
	比率	59.84%	0.00%	0.05%	0.00%	0.00%	37.62%

⑥電離放射線健康診断

■前年に比べ受診者数は増加しているものの、各管理区分の内訳に大きな変化は認めません。

対象物質	受診者数	管理区分					
		A	B1	B2	C	R	T
電離放射線	9,299	6,776	438	8	0	32	1,748
	比率	72.87%	4.71%	0.09%	0.00%	0.34%	18.80%

⑦酸等取扱い者の歯科健康診断

■前年に比べ受診者数は増加しており、厚生労働省からの受診勧奨の影響が推測されます。各管理区分の内訳は、2が増加し、1が減少する結果となりました。

健康診断名	受診者数	管理区分					
		特別	1	2	3	4	
歯科	5,710	18	1,342	4,331	25	7	
	比率	0.32%	23.50%	75.85%	0.44%	0.12%	

管理区分	症状区分
特別	特別な措置を要するもの(令22条関連)
1	特別の所見のないもの
2	軽度の措置を必要とする
3	急な措置を必要とするもの
4	咀しゃく発音の回復のための補綴を要する

2.指導勧奨による健康診断の所見率

紫外線・赤外線業務従事者健康診断

■前年に比べ受診者数は増加しており、T0が増加し、Aが減少する結果となりました。

健康診断名	受診数	管理区分					
		A	B1	B2	C	R	T
紫外線・赤外線業務従事者	3,073	2,426	7	0	0	0	637
	比率	78.95%	0.23%	0.00%	0.00%	0.00%	20.73%

騒音作業健康診断

■各管理区分の内訳は、前年に引き続きAが減少し、A'が増加する結果となりました。今後の推移を見る必要があります。

健康診断名	受診者数	管理区分							
		A	A'	B'	B1	B2	C	R	T
騒音作業	12,621	3,586	5,170	2,737	474	293	0	0	125
	比率	28.41%	40.96%	21.69%	3.76%	2.32%	0.00%	0.00%	0.99%

T:聴力検査の結果、当該因子以外の原因による疾患にかかっている場合、または異常が認められる場合(管理Rに属するものを除く)

T0:当該因子以外の原因と考えられる異常を一部に認めるが、直ちに治療等を必要としないもの

情報機器作業健康診断

■前年に比べ受診者数は減少しており、各管理区分の内訳はB2が著しく減少し、T0とB1が増加する結果となりました。2019年7月より新ガイドラインへの対応のため、評価基準が変更になった影響が推察されます。

健康診断名	受診者数	管理区分					
		A	B1	B2	B3	C	T
情報機器作業者	9,435	5,672	616	573	0	0	776
	比率	60.12%	6.53%	6.07%	0.00%	0.00%	8.22%